

国会闘争速報

2006年12月8日 第35号

発行：全国労組交流センター

東京都台東区元浅草 2-4-10 五宝堂・伊藤ビル5F

TEL 03-3845-7461 FAX 03-3845-7463

kokkaitousou@yahoo.co.jp にアドレスを送ってください。連日、「国会闘争速報」をメールします。

北海道から350名の熱い隊列

北教組350名の大
隊列が圧巻だった。大
分からも50名が参加し
た。石川、都高教、東
京教組、千葉、神奈川、
全教などの教組も座り
込みを続け、7日の国

12日に中央公聴会 採決を押し込む

参議院教基法特別委
は7日夜の理事会で、
11日に参考人質疑、12
日に中央公聴会の日程
を決めた。よって採決
は事実上14日以降に押
し込むこととなった。



森越日教組委員長発言

八木秀次（高崎経済大学教授、『日本教育再生機構』理事長）「森越さんに言いたいんですけども、今国会前で何人も日教組の人たち、座り込んでますよね。子どもたちが毎日のようにこうやって自殺している中で、どうしてああいうことをやってんのかな、と素朴に疑問に思うんですよ」

田原総一郎「八木さん、それは何のために？」

八木「教育基本法改悪反対で」

伊藤玲子（日本女性塾）「毎日毎日、地べたに座ってですよ」

八木「ぜひああいう先生たちは教室に戻ってほしい」

伊藤「そうですよ」

森越康雄（日教組委員長）「あの一、すみません、先週でやめました、それ」

伊藤「だけど毎日毎日、何人やっているんですか」

森越「あれはうちの人たちではありません」

（11月24日深夜（25日早朝）放送の「朝まで生テレビ」より）

下記にその部分のビデオあります。
<http://www.geocities.jp/dorosien28/>



続こう、職場から国会へ

会前は教育労働者の怒りで充滿していた。7名のハリスト者を先頭に支援50名以上が元気よく座り込んだ。その横で不当弾圧と経済制裁に対する在日朝鮮人100名の抗議行

動が熱く闘われた。座り込みに対する与党議員の暴言が続いている。打撃を受けている証拠だ。シユプレヒコールは院内に響くという。来週は空前の国会前結集をめざそう。

●決議をあげた神奈川県立高校の教育労働者Sさん

私の分会では昨日、「教育基本法改悪反対運動強化と、日教組・森越委員長の辞任を求める分会決議」をあげた。組合の本部を突き上げ、日教組中央に対する弾劾行動を起こしたい。私たち現場労働

者こそが日教組。いくら教基法が改悪されようが、戦争協力を求められない現場の団結した力をつくろう。分会決議を全国に広げて弾劾行動に立とう。今日明日さらには今後、現場から仲間を引き連れて闘いぬぎ、闘う日教組をつくっていきこう。

森越・日教組委員長の辞任を求める分会決議 あがる（裏面へ）

●ハンスト者・Kさん 大阪から来た。日教組本部方針を受けて、学校現場の激務をおして座り込んでたかいいぬいたことに対して、森越委員長がそれを否定した。本当に裏切り行為だ。辞めてもらわねばならない。

現場組合員は今日も何百と座り込みに立ち上がり、地域でたたかっている。この力こそ、たたかう日教組に再生させ、教基法改悪を止め、現場に責任をとっていくもの。改悪を止めたら安倍を倒す展望もでる。

●ハンスト・被処分者Mさん 教基法の10条で、国や教育行政が教育現場

へ不当に介入すること禁じていたところから、改悪法案では国や教育行政に教育現場が抵抗することが禁じると180度変わっている。「君が代」不起立予防訴訟判決の根拠さえ失われる。絶対に廃案にしよう。

●都高教一さん 土日仕事をし、睡眠時間も削って座り込みに来た。さ

「教育基本法」改悪反対運動強化と、森越委員長の辞任を求める分会決議

教育基本法改悪問題を中心とした諸教育問題に対する日教組本部の取り組みは、現場組合員の思いとかけ離れた不適切なものと言わざるを得ません。

01年の中教審答申以来、改憲に向けた国家戦略の一環として教育基本法改悪はまさに本格化してきています。その間、教育現場は混迷させられ、教職員は苦闘を強いられています。この動きの核心は改憲であり、そのための「日教組つぶし」であることは明らかです。

31年ぶりに日教組が「非常事態」を宣言したとき、全国の組合員は改悪阻止のために全力で闘おうと決意していました。しかし、10月26日の全国集会では森越委員長はそこに姿を見せず、その後の国会闘争にも一

度たりとも参加していません。情勢を鑑みれば、万難を排して委員長自ら闘争の最先頭に立つて事態に取り組むべきでした。日教組の存亡がかかったこの事態こそ「非常事態」です。森越委員長は弁解の余地がない過ちを犯したと私たちは考えています。

テレビ朝日の討論番組において、森越委員長は日教組運動を自ら完全否定しました。偏狭な考えを持つ論客からの追及や質問に対し、教育現場の職員、保護者の代表として堂々と意見を表明することなく、反論することもなく、日教組を貶める屈辱的な対応に終始しました。国会前で抗議運動をしている仲間を「あれはうちの人達ではない」と切り捨て、「すみません。国会前闘争は先

週でやめました」と謝罪までしました。国会前闘争を指令した中央委員会決定を委員長自らが否定するとは何事でしょうか。「非常事態」宣言は何のためだったのでしょうか。

多くの教職員仲間や市民が闘っているにもかかわらず、それらの人々を見放し裏切る執行部の下ではまともな運動を続けることはできません。不安感と失望感が増すばかりです。仮に改悪教基法が成立したとしても、それをね返す闘いが続きます。「教え子を戦場に送るな」の原点に立った日教組の団結と闘いが今問われているのです。

よって、森越委員長が速やかに退陣することと、日教組がその原点に立ち返って、教育基本法改悪阻止・改憲阻止の先頭に立つことを私たちは強く要求するものです。

06年12月6日

神奈川県高等学校教職員組合

A分会（本文の一部を省略）

ぼって座り込んでいるなどとふざけたことを言うな、と言いたい。教師や生徒を苦しめている教育行政が現場に介入したら、もっと苦しむのは目に見える。闘いの強さの原点がこのハンストにある。

●動労千葉・滝口さん 中曽根は分割民営化で国鉄労働運動をつぶし、総評をつぶすと言った。しかし国鉄闘争が今なお闘われている。動労千葉は今も生き残り、今年も尼崎事故を繰り返さないという立場から合理化反対・安全運転保安の確立をたたかい、JR東に要求を飲ませた。教基法改悪も同じだ。強行採決されても制圧されるかどうかは現場のたたかいが核心。不起立闘争は決定的だ。森越のような幹部の裏切りは最も許せない。国会前闘争でたたかう日教組をつくろう。

行動予定

- 国会前座り込み
- ハンスト者、連日の9時～18時
- 東京教組、連日の16時～18時
- 都高教、連日の14時～16時
- 北教組、8日
- 全国連絡会、8日9時～17時
- その他、都教組や神奈川・千葉等も
- 8日（金）夕、日教組の緊急中央集会・デモ（2波、日比谷野音）
- 12日（火）18～19時、教基法改悪阻止の国会前集会（主催：全国連絡会）
- 13日（水）17～18時、「ヒューマン・チェーン」